



おひさしぶりです！

とやまケンキョーソ特命

# 多忙解消

# SP

セキュリティーポリス  
No. 23

## 富山県は1学期の始業式が早すぎる！

県教組の調査によると、2019年度の小中学校の始業式は全国ほとんどの市町村で4月8日（月）でした。調査した中には4月5日（金）に始業式を行う市町村もありましたがごく少数です。そのような中、富山県ではすべての市町村で4月4日に始業式が行われました。他市町村が5日間の準備期間を設けていたのに対して、富山県はわずか3日間です。県立高校や特別支援学校も4月8日が標準です。

2019年4月

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	④	5	6	7
⑧	9	10	11	12	13	14

県外

富山県

## コロナで気づいた「ゆとり」の大切さ

《ある組合員より》

今年は、いつもだと忙しい4月に研修会や子どもたちを迎える準備がゆっくりできた。これは臨時休業で見てきた働き方改革の一つのアイデアになる。つまり4月の始業式を遅らせてもよいのではないかということ。富山県は内示から担任決定、始業式までの期間が短すぎる。

組合員からこのようなメッセージが届きました。この問題について富山県教組ではWEB調査によって、組合員の意見を集めました。

4月1日から始業式までに何日の勤務日があれば、十分な準備ができると思いますか。

小学校 ①7日(36%) ②5日(32%) ③4日(11%)

中学校 ①7日(33%) ②5日(29%) ③4日(11%)

このようにバラツキはありますが、5~7日必要という声が多いです。もし7日の準備期間を確保するのであれば、始業式は4月10日となります。実はこれに

よって、4月・5月・6月の時間外勤務時間を各月10時間縮減することが期待できるのです。

そのエビデンスは裏に！さらに保護者のアンケートも！



4コママンガも

ひさびさの登場

## 新体制SPメンバー自己紹介



委員長・魚津支部担当  
**能澤 英樹**  
県教組本部に来てはや5年目。悲願の働き方改革の実現に向けて日々、全集中！



書記長  
**相澤 誠**  
結婚して名前が相澤になりました。みなさんの声を関係機関に届けます。



書記次長・砺波支部担当  
**田守 健治**  
学校回りのときにかげられる「いつもありがとう」の一言に元気をもらっています。



富山支部担当執行委員  
**布瀬 護**  
Cカーブは新井  
A甘いもの大好き  
Rラーメンは大喜  
Pプリン体に注意



高岡支部担当執行委員  
**氷見 三佐子**  
みんなのために  
さらにパワーアップ  
子どもや教職員のため  
☆スイーツ大好き



特別支援担当執行委員  
**鈴木 佳世子**  
支援学校の働き方改革や支援学校卒の採用試験受験者を増やすアイデアを募集します！

始業式を4月10日にすることで、約32時間(8時間×4日)の準備時間がプラスされます。ここで、教材研究、教育計画や起案文書の作成、学年打ち合わせなどを集中して行うことで、計算上は4・5・6月に各月10時間の業務時間の縮減ができます。仮に始業式を4月8日とすると5時間の縮減に留まり、効果が半減します。

## 保護者はどう思う？

昨年11月に富山県PTA会員大会が開催され、能澤執行委員長が学校の働き方改革について20分間のプレゼンを行いました。その中で4月10日に始業式を行うことの効果を説明し、その場でWEBアンケートを行いました。

始業式は何日であれば遅らせてもよいですか。

- ① 4日遅らせて4月10日 (52%)
- ② 2日遅らせて4月8日 (17%)
- ③ 今のまま4月6日がよい (15%)



このように半数以上が遅らせることに理解を示しています。

## 教育委員会の判断は・・・

県教組は15市町村の教育委員会に要望書を提出し、これらのデータを示しながら、「始業式を4月10日に行うこと」を申し入れました。残念なことに多くの市町村は「来年度の始業式は4月6日」という回答でした。理由は、「授業時間の確保」「校長会の意見」「準備は毎年3日でできている」「授業日数が短くなると、子どもたちへ負担がかかる」というものです。「夏休みの短縮とセットであれば一考の余地がある」との考えを示す教育委員会もありました。

## 先生の元気が子どもたちの笑顔に

県教委が調べた2019年の県内中学校の時間外勤務時間は4月87時間、5月83時間、6月83時間です。この3か月が年間で最も長時間労働になっており対策は必須です。全国的にも、過労で倒れる人が多いのは1学期なのです。

また小学校では、教科数が多い中、指導要領に目を通す時間もなく「ドロ縄式」に授業準備をせざるをえません。特に、経験のない新任者が学年を告げられてからわずか3日の準備期間で授業を始めるのは非常に厳しいです。特別支援学校でも、半数以上の新任者は特別支援の免許をもたず、始業式前に学ぶ時間があれば、特別支援の理解を深めて子どもたちを迎えることができます。

県教組はこれからもこの問題について関係各所に訴え続けていきます！各学校でも、職員室で話題にしたり、管理職に問題提起したりして、「風」を起こしてくださると嬉しいです！

